



2027年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年9月11日

上場会社名 東建コーポレーション株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 1766 URL <https://www.token.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 左右田 善猛
 問合せ先責任者 (役職名) IR室 室長 (氏名) 尾崎 健太郎 TEL 052-232-8000
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年4月期第1四半期の連結業績(2026年5月1日～2026年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年4月期第1四半期	94,809	1.4	4,574	△18.5	4,749	△17.5	3,182	△24.5
2026年4月期第1四半期	93,477	5.0	5,614	8.6	5,753	8.9	4,217	19.8

(注) 包括利益 2027年4月期第1四半期 3,183百万円(△24.6%) 2026年4月期第1四半期 4,220百万円(20.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年4月期第1四半期	286.72	—
2026年4月期第1四半期	313.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年4月期第1四半期	208,234	115,537	55.5
2026年4月期	215,656	116,350	54.0

(参考) 自己資本 2027年4月期第1四半期 115,537百万円 2026年4月期 116,350百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年4月期	—	0.00	—	360.00	360.00
2027年4月期	—	—	—	—	—
2027年4月期(予想)	—	0.00	—	400.00	400.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年4月期の連結業績予想(2026年5月1日～2027年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	193,063	3.2	9,309	△14.2	9,639	△13.0	6,546	△17.4	589.68
通期	408,218	5.6	20,175	△9.8	21,108	△9.9	14,568	△9.9	1,312.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社 (社名) 、除外 —社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年4月期1Q	13,472,000株	2026年4月期	13,472,000株
② 期末自己株式数	2027年4月期1Q	2,371,090株	2026年4月期	2,371,020株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年4月期1Q	11,100,963株	2026年4月期1Q	13,443,676株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有 (任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2頁「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
3. 参考資料	9
(1) 連結受注実績	9
(2) 連結売上実績	9
(3) 期中受注高(単体)	10
(4) 部門別売上高(単体)	10
(5) 受注残高(単体)	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や政府による各種政策の効果により、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、中東情勢や自然災害、金融資本市場の変動の影響に注意する必要があるなど、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

建設業界におきましては、新設住宅着工戸数は19万戸（前年同期比18.7%増）となり、建築物省エネ法の改正に伴う駆け込み需要により、大幅な反動減の影響で弱含んでいた前年同期を上回りました。また、新設貸家着工戸数は8万5千戸（前年同期比21.2%増）となりました。

このような状況のなか、当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は948億9百万円（前年同期比1.4%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は45億7千4百万円（前年同期比18.5%減）、経常利益は47億4千9百万円（前年同期比17.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は31億8千2百万円（前年同期比24.5%減）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

(建設事業)

建設事業におきましては、前連結会計年度の受注高が増加したことにより、期初の受注残高は豊富にあり、予定工期を概ね順調に消化することができましたが、工事進行基準売上は増加したものの完工物件が少なかったことから、当第1四半期連結累計期間の完成工事高は前年同期と比較して減少しております。利益面におきましては、建設資材や住宅設備機器価格の上昇等により、完成工事総利益率は低下しました。この結果、建設事業における売上高は376億8百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は25億4千1百万円（前年同期比29.7%減）となりました。

また、当第1四半期累計期間の当社単体における総受注高につきましては、592億6千7百万円（前年同期比18.1%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業におきましては、管理物件数の増加に伴うサブリース経営代行システム（一括借り上げ制度）による入居者様からの家賃収入及び管理料収入等の増加により、売上高は前年同期と比較して増加しております。また、賃貸建物の当第1四半期末の入居率は入居仲介促進のための各種施策に積極的に取り組んだことにより98.0%となり、高い入居率を維持しております。この結果、不動産賃貸事業における売上高は566億1千8百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は経費の増加があったものの39億6千8百万円（前年同期比2.0%増）となりました。

(その他)

総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業で構成されるその他の事業における売上高は5億8千2百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は1千7百万円（前年同期は営業損失5千7百万円）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

資産の部におきましては、現金預金が76億1千1百万円減少したことなどにより、流動資産は1,298億1千6百万円（前期末比4.9%減）となりました。この結果、資産合計は2,082億3千4百万円（前期末比3.4%減）となりました。

負債の部におきましては、工事未払金が20億4千7百万円減少したこと、及び未払法人税等が29億3千2百万円減少したことなどにより、流動負債は657億3千7百万円（前期末比9.0%減）となりました。この結果、負債合計は926億9千7百万円（前期末比6.7%減）となりました。

純資産の部におきましては、利益剰余金が8億1千3百万円減少したことなどにより、純資産合計額は1,155億3千7百万円（前期末比0.7%減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2026年6月12日の「2026年4月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期（中間期）連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	118,474	110,863
受取手形・完成工事未収入金等	9,804	9,955
未成工事支出金	2,187	3,012
その他の棚卸資産	1,862	2,042
その他	4,182	3,968
貸倒引当金	△25	△26
流動資産合計	136,486	129,816
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	16,891	16,743
土地	16,683	16,683
その他（純額）	8,010	7,928
有形固定資産合計	41,585	41,355
無形固定資産	2,693	2,788
投資その他の資産		
長期預金	20,000	20,000
その他	15,208	14,590
貸倒引当金	△316	△316
投資その他の資産合計	34,891	34,273
固定資産合計	79,170	78,418
資産合計	215,656	208,234
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	14,060	12,055
未払法人税等	4,041	1,108
賞与引当金	1,747	636
完成工事補償引当金	356	358
家賃保証引当金	584	569
その他	51,413	51,008
流動負債合計	72,204	65,737
固定負債		
役員退職慰労引当金	190	203
退職給付に係る負債	3,117	3,103
長期預り保証金	21,770	21,647
その他	2,023	2,005
固定負債合計	27,101	26,959
負債合計	99,305	92,697

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,800	4,800
資本剰余金	20	20
利益剰余金	140,243	139,430
自己株式	△29,793	△29,794
株主資本合計	115,270	114,456
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	233	278
退職給付に係る調整累計額	846	801
その他の包括利益累計額合計	1,079	1,080
純資産合計	116,350	115,537
負債純資産合計	215,656	208,234

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第 1 四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2025年 5 月 1 日 至 2025年 7 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2026年 5 月 1 日 至 2026年 7 月31日)
売上高		
完成工事高	38,263	37,608
兼業事業売上高	55,213	57,200
売上高合計	93,477	94,809
売上原価		
完成工事原価	26,535	26,707
兼業事業売上原価	50,887	52,695
売上原価合計	77,423	79,403
売上総利益		
完成工事総利益	11,727	10,901
兼業事業総利益	4,325	4,505
売上総利益合計	16,053	15,406
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	5,781	5,855
賞与引当金繰入額	364	284
退職給付費用	52	45
役員退職慰労引当金繰入額	8	13
貸倒引当金繰入額	1	0
その他	4,230	4,631
販売費及び一般管理費合計	10,439	10,832
営業利益	5,614	4,574
営業外収益		
受取利息	20	28
保険代理店収入	63	70
その他	74	106
営業外収益合計	158	205
営業外費用		
クレーム損害金	10	26
その他	8	4
営業外費用合計	19	30
経常利益	5,753	4,749
特別利益		
固定資産売却益	1	1
リース資産減損勘定取崩益	117	-
特別利益合計	118	1
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	5,871	4,750
法人税、住民税及び事業税	1,315	1,024
法人税等調整額	338	542
法人税等合計	1,653	1,567
四半期純利益	4,217	3,182
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,217	3,182

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年5月1日 至 2026年7月31日)
四半期純利益	4,217	3,182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	45
退職給付に係る調整額	△29	△44
その他の包括利益合計	2	1
四半期包括利益	4,220	3,183
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,220	3,183

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第 1 四半期連結累計期間(自 2025年 5 月 1 日 至 2025年 7 月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	38,263	54,672	92,936	541	93,477	—	93,477
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	190	190	115	306	△306	—
計	38,263	54,863	93,127	656	93,784	△306	93,477
セグメント利益又は損失 (△)	3,614	3,889	7,504	△57	7,446	△1,832	5,614

当第 1 四半期連結累計期間(自 2026年 5 月 1 日 至 2026年 7 月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	37,608	56,618	94,227	582	94,809	—	94,809
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	206	206	124	330	△330	—
計	37,608	56,824	94,433	706	95,139	△330	94,809
セグメント利益	2,541	3,968	6,510	17	6,528	△1,953	4,574

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業を含んでおります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失 (△)

(単位：百万円)

項目	前第 1 四半期連結累計期間	当第 1 四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	△3	6
全社費用※	△1,828	△1,960
合計	△1,832	△1,953

※全社費用は、主に提出会社本社の総務管理部等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む）は次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2025年 5 月 1 日 至 2025年 7 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2026年 5 月 1 日 至 2026年 7 月31日)
減価償却費	477百万円	515百万円

3. 参考資料

(1) 連結受注実績

区分	前第1四半期 連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2026年5月1日 至 2026年7月31日)	増減		(参考) 前連結会計年度 (自 2025年5月1日 至 2026年4月30日)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
建設事業	51,720 (47,391)	60,917 (56,854)	9,197 (9,463)	17.8 (20.0)	225,521 (205,610)
不動産賃貸事業	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合計	51,720 (47,391)	60,917 (56,854)	9,197 (9,463)	17.8 (20.0)	225,521 (205,610)

※ 上記受注高の()の数値は、キャンセル処理した額を控除したものであります。

(2) 連結売上実績

区分	前第1四半期 連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2026年5月1日 至 2026年7月31日)	増減		(参考) 前連結会計年度 (自 2025年5月1日 至 2026年4月30日)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
建設事業	38,263	37,608	△654	△1.7	164,106
不動産賃貸事業	54,672	56,618	1,945	3.6	220,237
その他	541	582	41	7.6	2,194
合計	93,477	94,809	1,332	1.4	386,537

(3) 期中受注高 (単体)

項 目	期 別	前第1四半期 累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)	当第1四半期 累計期間 (自 2026年5月1日 至 2026年7月31日)	増減		(参考) 前事業年度 (自 2025年5月1日 至 2026年4月30日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
受注高		50,163 (45,839)	59,267 (55,207)	9,104 (9,367)	18.1 (20.4)	218,759 (198,888)

※上記受注高の()の数値は、キャンセル処理した額を控除したものであります。

(4) 部門別売上高 (単体)

項 目	期 別	前第1四半期 累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)	当第1四半期 累計期間 (自 2026年5月1日 至 2026年7月31日)	増減		(参考) 前事業年度 (自 2025年5月1日 至 2026年4月30日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
完成 工事 高	賃貸マンション	4,619	4,167	△451	△9.8	20,983
	アパート	29,674	29,428	△246	△0.8	125,684
	個人住宅	41	17	△24	△57.9	110
	店舗マンション	2,056	1,720	△336	△16.4	8,960
	貸店舗	157	251	93	59.1	1,113
	その他	38	110	72	186.1	316
	小計	36,589	35,696	△892	△2.4	157,168
兼業 事業 売上 高	仲介料収入	933	1,009	75	8.1	3,893
	管理手数料収入	120	125	4	3.8	494
	退去補修工事	1,706	1,761	55	3.3	6,016
	リフォーム工事	1,580	1,500	△80	△5.1	6,281
	業務受託料収入	1,725	1,787	61	3.6	7,006
	その他	1,447	1,442	△5	△0.4	5,864
	小計	7,514	7,626	111	1.5	29,556
合計		44,103	43,323	△780	△1.8	186,725

(5) 受注残高 (単体)

項 目	期 別	前第1四半期 会計期間末 (2025年7月31日)	当第1四半期 会計期間末 (2026年7月31日)	増減		(参考) 前事業年度末 (2026年4月30日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
受注残高		238,418	290,703	52,284	21.9	271,083

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年9月11日

東建コーポレーション株式会社
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

名古屋事務所

指 定 社 員
業務執行社員

公認会計士 小 出 修 平

指 定 社 員
業務執行社員

公認会計士 三 島 陽

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている東建コーポレーション株式会社の2026年5月1日から2027年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2026年5月1日から2026年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2026年5月1日から2026年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに期中連結財務諸表に係る我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1． 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2． XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。